

第3学年 図画工作科学習指導案

3年2組 24名

授業者 矢部 有紗

授業場 図工室

1 題材名 これがかきたい ～ せかいに一つだけのふで ～

「A表現(1)イ(2)イ、B鑑賞(1)ア

〔共通事項〕(1)ア、(1)イ」

2 研究主題とのかかわり

ICTの効果的な活用、子供と題材や他者との豊かな関わり

3 題材設定の理由

本題材は、木の枝をはじめとする身の回りにある材料を使って、自分だけの筆やペンをつくることができる題材である。まず、身近な材料の触り心地のよさや違いに気付き、どんな線や形がかけられるかを想像をふくらませる。そして、材料を削ったり、組み合わせたりしながら作品をつくっていく中で、材料の特徴を捉え、生かして、自分だけの筆やペンをつくる姿が期待できる。完成後、かき心地を楽しんだり、よさや面白さを伝えあったりすることで、つくる喜びを実感できると考えた。

本学級の児童は、図画工作の学習に意欲的に取り組み、授業以外でも絵をかいたり、折り紙で作品をつくったりして、楽しく過ごす姿が見られる。1学期に行った工作「わりピンワールド」では、わりピンを使って組み合わせた紙を動かしながら思いついたものを表現した。わりピンを使うことでおこる動きを理解し、自分の表現したいもののイメージを広げながら製作に楽しく取り組む姿がみられた。また、材料や接着方法を選ぶなどつくりたいものを表現するために、何を使うとよいかを試行錯誤をする様子が見られた。しかし、接着がうまくいかずつくりたいものを諦める児童や、自分のイメージをもっていながらも、意欲的に活動に取り組めない児童がいた。また、出来上がった作品を使ってみたり、見合ったりする姿もあまり見られなかった。そこで、自分の表現したいもののイメージをもたせ、材料を選んだり、構想を練ったりする中で、「つくり、つくりかえ、つくる」を楽しみながら自分らしい作品を表現する喜びを味わわせたいと考えた。さらに、出来上がった作品を実際に友達と使い合う場面を通して、自分の作品に愛着をもってほしいと思い本題材を設定した。

指導に当たっては、つくりたい筆のイメージを膨らませることができるよう、木の枝や布、輪ゴム、綿などの材料に触れる時間を十分に設ける。かき心地を試しながら、自分のイメージに合うように工夫してつくりかえていく。その際、つくった筆先の感じを捉えることができるように、教室の中にいつでも試しがきができる「お試しコーナー」を設けておく。また、「かくものをつくる」という目的から外れないように、個々のタブレット端末で活動過程を記録していく。最後に、完成した作品を見合ったり、使ったりすることを通して、互いの作品のよさや面白さに気付くとともに、自分の作品に愛着をもつことができるようにしたい。このような活動を通して、思いのままにつくりかえ、表現する楽しさを味わい、つくりだす喜びを感じられる児童を育てていきたい。

4 題材の目標

- (1)・身近な材料を触ったり組み合わせたりして筆やペンをつくるときの感覚や行為を通して形や色などの感じが分かる。
- ・枝などを適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を活かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
- (知識及び技能)
- (2)・材料を触って感じたことや、試しかいた形を見たことから表したいことを見付け、用途を考え形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
- ・実際に使うなどして、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて感じとったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- (思考力、判断力、表現力等)
- (3)・進んで材料を組み合わせでつくったり、かき心地を試したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。
- (学びに向かう力、人間性等)

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近な材料を触ったり組み合わせたりして筆やペンをつくるときの感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 ・枝などを適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を活かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、材料を触って感じたことや、試しかいた形を見たことから表したいことを見付け、用途を考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、実際に使うなどして、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・つくりだす喜びを味わい進んで材料を組み合わせでつくったり、かき心地を試したりする学習活動に取り組もうとしている。

6 材料・用具

木の枝（様々な大きさ、太さ）、タッチボンド、グルーガン、綿、はりがねなど

7 指導と評価の計画（4時間 本時2/4）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	- 身近な材料に触れ、触り心地のよさや違いなどを味わう。 - 材料を組み合わせでどんな線や形がかけられるのか想像を膨らませる。	知 ◎	さまざまな材料を見たり触ったりする行為から、形や色などの感じが分かっているか観察し、記録を残す。 （観察・対話・ワークシート）
2 （本時）	材料を試しながら、かいた線や形の感じからイメージを膨らませ、工夫してつくる。	思 ◎ （発想や構想）	- さまざまな材料を見たり触ったりした感じからいろいろ組み合わせている様子を観察する。 - 筆先の材料に触れて感じたことから、つくりたい筆を思いついているかを把握し、記録に残す。 （観察・対話・発言・作品）
3	前時の活動記録を振り返り、自分のめあてをもって、工夫してつくりかえる。	技 ◎	材料ごとに適切な接着方法を選び、自分の思いに合わせて材料や用具の使い方を工夫しているかを把握し、記録に残す。 （観察・対話・発言・作品）
4	- つくった筆やペンに絵の具やインクをつけて、線や形をかきながら、かき心地を楽しむ。 - 完成した筆やペン、かいた線などを見合い、よさや面白さを味わう。	思 ◎ （鑑賞） 態 ◎	- 自分や友人のつくった筆やペン、かいた線や形のよさや面白さを感じ取って伝えあっている様子を観察したり、ワークシートで確認したりする。 - 身近な材料の感じやかいた線や形の感じ、組み合わせによる感じの違いなどが分かっているか、活動全体を通して把握する。 （ワークシート・発言）

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。

8 本時

(1) 目標

筆先の材料に触れて感じたことを基に、つくりたい筆を考え、自分の思いに合わせて材料や用具を工夫して表すことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意事項○評価【観点】(評価方法)
10分	1 本時の活動への意欲をもち、本時のめあてをつかむ。	・筆先の形状によって、かいた線や形の感じが違ってくことを捉えることができるようにし、本時のめあてをつかむことができるようにする。
	自分のイメージにあったふでをつくろう。	
25分	2 つくった筆を試しながら、かいた線や形の感じからイメージを膨らませて、用途に合った筆になるように工夫してつくる。	・一つ一つの材料を見たり、触ったりすることで筆の用途に合った材料を選び、自分のイメージをもって活動に入れるようにする。 ・壁や机、床に紙をおいて自由にかき心地を試することができる「お試しコーナー」を用意し、自分の創造していたかき心地になったかを、何度も確認ができるようにする。 ○筆先の材料に触れて感じたことから、つくりたい筆をどのように表すかについて考えている。 【思考・判断・表現】(観察・対話・発言・作品)
10分	3 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	・自分のつくったものをタブレットで記録し、つくってきた過程を振り返ることができるようにする。 ・次時の目標を決めることで、次時の活動にも意図をもって、自分のイメージに合ったものがつくれるようにする。

評価及び指導の例

① 思考・判断・表現

「十分満足できる」と判断される状況	筆先の材料の特徴から、表したいことを見付け、自分なりにつくりたい筆の表し方を考えている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	自分のイメージに合った材料を選ぶことができるように、一緒に試しがきをする。他の友達の作品を自由に見に行き、自分の活動のヒントにつなげる。また、対話を重ねてどんなものを表したいか児童の思いをつかみ、その思いに共感しながら、表現の提案をする。

授業記録

題材名 これがかきたい ～せかいに一つだけのふで～

展開

教師のはたらきかけ	児童の反応
Ⅰ 前時のふりかえりをする。 ○前の時間にどんな筆をつくりたいか構図を考えたよね。 ○今日は実際につくっていきます。それでは今日のめあてを読みましょう。 ○枝を触るときのヒントを前の時間に出したけど覚えてる。 ○どんな触り心地だった。 ○他のヒントは。 ○どんな形があった。 ○その形からいろいろ思いついたり、スタンプにしたいって人もいたよね。 ○もう一つのヒントは何だった。 ○Aさんはどんな組み合わせ方をしようと考えた。 ○Bさんはどう。 ○組み合わせ方が違うから友達からもヒントもらってね。あともう一つ気を付けてほしいポイントがあります。「かき心地をためしながらへんしんさせよう。」です。 ○前の時間は枝だけでかいたよね。 ○もっと柔らかい感じや、硬い感じを出すにはどうすればいい。 ○たくさん材料もあるので使ってくださいね。ホットボンドも使っていていいです。でも、それでもうまく引っ付かなかっただうする。	○面白い筆考えた。 ざい料の組み合わせをくふうして、かき心地をためしながらふでをつくろう。 ○触り心地。 ○つるつる、ざらざら、ぼこぼこ、ちくちく、ぽろぽろ。 ○枝の形。 ○曲がってる。くねくね。細い。分かれている。 ○組み合わせ方（掲示は、枝と枝の組み合わせから。） ○くねくねしたところを組み合わせたい。 ○穴が開いているところを使う。 ○細い枝をたくさん組み合わせたり、太い枝を組み合わせたらいいと思う。 ○平らな部分を使う。 ○ひもやゴムでくくる。

教師のはたらきかけ	児童の反応
○最後に活動で気を付けることは、「安全に気を付ける」「用具はその場で使う」「材料は大切に使う」です。地面にある青い線のところには座らないでください。 2 活動する。 ○どう固定したい。どれで固定してみる。Cさんは、針金で固定していたよ。Cさんどうやって組み合わせたか教えてあげて。 ○きれいにかけてるね。 ○どうすればうまくくっつくかな。みんな考えてあげて。(近くの児童に呼びかけ) ○面白い筆できてるね。どんなかき心地がするかな。 ○廊下にもかくところあるからね。高いところにもかけるよ。(全体) ○どこに材料つけたい。どうしてそこがいい。 ○何かいてるの。 ○イメージ通りできてる。 ○タブレットを見てどんな筆をつくろうとしたか思い出してみてもいいよ。材料一緒に取りに行こう。	○ホットボンドでくっつけてみたい。 ○ハサミで切ってみよう。 ○固定できない。 ○枝と枝の間を針金で固定するよ。 ○なるほど。やってみる。 ○うまくホットボンドでくっつかない。 ○さらさらかける。 ○ふわふわした綿でかくと面白そうだから。 ○スタンプみたいに押せる。 ○コンパスみたいに円かけそう。 ○足あとみたい。すごい。 ○かすれてしまう。 ○どうするんだったっけ。(タブレットで確認)

教師のはたらきかけ	児童の反応
○一人で固定無理そうだね。Dさんさっき上手にできていたから手伝ってあげて。 ○どこがいいの。 3 今日の活動のふりかえりをする。 ○活動してみてどうだった。困ったことでもいいよ。 ○何かいい案ない。 ○他にある。 ○今日の、活動でひらめいたことや困ったことを振り返って、次の時間ががんばりたいことをめあてにしてください。 ○次の時間のめあてを発表してください（児童が撮った写真をテレビに映し出す。） ○みんな世界に一つだけの筆に近づいていますか。次の時間も続きをしていきましょう。	○材料ポンポンつかってみるとかわいいよ。 ○かけるけど、とれちゃう。 ○枝をもっとふやそうかな。 ○綿とスポンジの組合せがいい感じ。 ○かいてみたとき、スポンジの色が濃くて、綿の色が薄いのがいい。 ○どうやって固定しよう。 ○枝に穴が開いていてそこに細い枝をさしてかいてみたらきれいにかけた。 ○うまくくっつかなかった。 ○ひもでくくりつけたらいいと思う。 ○ストロー固定するときに困った。 ○タブレットにふりかえりをかく。（作品の写真も撮る。） ○材料と材料の組み合わせ方を工夫する。どうしてかという、木の枝の先のちっちゃいところになかなか付けられなかったから。 ○組み合わせる方法を工夫する。最初にくっついてたけれど取れてしまったから。 ○材料と材料の組合せ方を工夫しようと思いました。どうしてかという、細い枝を組み合わせるときに折れてしまったからです。

研究会記録

題材名 これがかきたい ～せかいに一つだけのふで～

発言者	発言内容
授業者	○単元について 木をはじめとする様々な材料を使って、自分だけのふでをつくったり、つくりかえたりすることを楽しむ単元。この単元を通して、木や枝のような身近なものを使い、つくりかえながら自分の作品を仕上げ、作品に愛着をもってほしいという思いがある。 普段の授業は、目的からずれることがある。今回の授業では、構想からずれないようにタブレットを活用した。 ○悩んだこと ・「形や色の感じ」とあるが、児童たちに色の感じをどのように捉えさせたらいいのか。 ・児童に対しての声かけが難しかった。どのような声かけがよかったのか。 ・場の設定は、あれでよかったのか。
参会者	どの子も、材料を見ながらつくり、つくりかえる活動ができていて、楽しそうだった。矢部先生が不安に思っていた児童も、自分で考えながらつくりかえることができていた。ICTの活用方法も工夫があってよかった。
参会者	絵の具の薄い・濃いを使い分けながら書き心地を試していた。 児童同士での声かけや、どうしたらできるかの相談もできていた。だからつくりかえることができていたのだと思う。最初はコンパスを作っていたけど、はさみにつくりかえていて、つくったものから工夫して違う物にしている児童もいた。あれだけ児童が散らばっているから見取るのに忙しいから、声かけの仕方が気になる。
参会者	作品はできたけど、なにか物足りない…とぶつぶつ言いながらしている児童がいた。もっとなんとかしたいという気持ちがあった。ICTの使い方、○を動かせるようになっていて、短い時間でも振り返りができる工夫があってよかった。
参会者	次の時間のめあてを選択制にしていたり、○が動かせるようになっていたり、たくさんの工夫があった。
授業者	めあてを選択制にしたのは、目的からずれてしまう児童がいると思ったから、初めからめあてを作っておくことにした。

参会者	前時で木そのもので書いてみたことがとてもよかった。I組で授業をしたときはしていないことだが、児童のわくわく感が違っていた。イメージはもてていたけど、それを使って書くというリンクができていない児童がいたかなと思う。材料の種類はあれでよかったのか。
授業者	中間指導をしようと思っていたが、しなかった。もう少し組み合わせ方を指導したほうがよかったのか。
参会者	児童同士で相談できていたのでもよかったのではないかな。距離も遠すぎず近すぎずという感じだったのでちょうどよかった。
参会者	こちらから見ていて、つぶやきがあったりアドバイスをし合ったり、と関わりがあったのでそれでよかったのではないかな。児童同士が教え合いっこで繋がっていた。
参会者	矢部先生に助けてほしいという児童が多かったけど、児童同士での会話が自然とできていた。
参会者	中間指導をするときは、めあてがずれているときや活動が滞っているときにしたらいいと思う。
参会者	書き心地をあまり確かめず、装飾のほうをしている児童がいた。
参会者	困っている児童を見つけるにはどうすればいいのかが難しかった。
助言者 A	矢部先生は細かいところまで見取れていたと思う。難しい教材だったのに、取り組んでいるのがすごい。枝を集めるのも大変だったと思う。枝は、こぶがあったり、渦巻いていたり、いろいろな種類があったのがよかった。児童は素材を吟味してチョイスしていた。 材料は、自然素材を扱うので麻ひも等の柔らかいものを使うのがいいと思う。でも、柔らかいはりがねやモール等、児童が扱いやすいものがあったのでよかった。 ふでと言うと、先に何かを付けたくなるものだが、木同士をくっつけている児童が多かった。接合に苦勞している児童がいたが、児童同士で相談しながら作っているのがとてもよかった。 ケーキのふでを作りたいと言っていた児童に、先生がどうしていいのか聞いていた。そうしていく内に、少しずつではあるが形になってきていたように思う。「もどかしい」「どうにかして解決したい」という気持ちが表れていた。 次の授業の最初に、困っていることやスキルのことをクラス全体で共有したらどうか。他の困っている児童は、それを見て試してみようと思う。

	ホットボンドやタッチボンドはすぐに固まらないので、接着する方法を教えてあげると、スキルが上がっていくかなと思う。固定するために、セロハンテープ、ガムテープでくっつけておく等。参考になるものを作っておいて、児童に提供するのでもいいかも。 児童の中にストーリーがあり、イメージをしっかり育てているのがよかった。導入がとてもよかったからこそ、児童は没頭、追求できていた。イメージマップを作らせるのでもいいかも。自分がどういうものを想像するのかがわかる。 言葉がけは私もずっと悩んでいるが、自己解決できるように、ヒントをどのくらい与えるのかを考えながらしている。
助言者 B	活動しながら ICT を使うというのは難しいが、よく使ってくれていると感じた。タブレットを使うメリットは、思考の可視化ができることだと思う。 振り返りでの使い方は、素晴らしいものだった。個別最適な学びができるようにするために、選択するだけでなく、自由枠を設け、そこでさらに感じたこと、気付いたことを書けるようにしたらよかったと思う。選択の幅をもたせることがスタートになる。